

国際開発ジャーナル (2015年12月号 60頁～61頁)  
【海外拠点を強化し業務のグローバル化を推進  
(株)オリエンタルコンサルタンツグローバルの米澤栄二社長に聞く】

CONSULTANT  
開発コンサルタントニュース  
NEWS

- 1 海外拠点を強化し業務のグローバル化を推進  
(株)オリエンタルコンサルタンツグローバルの米澤栄二社長に聞く
- 2 得意分野を前面に出した“差別化”路線を推進  
(株)コーエイ総合研究所の神山雅之社長に聞く
- 3 「開発コンサルティング企業 Open Week」を実施  
(一社)海外コンサルティング企業協会

## 1 海外拠点を強化し業務のグローバル化を推進 (株)オリエンタルコンサルタンツグローバルの米澤栄二社長に聞く

(株)オリエンタルコンサルタンツグローバル(OCG)の社長に10月1日付で米澤栄二氏(52歳)が就任した。  
(株)オリエンタルコンサルタンツから分割譲渡されて1年。米澤社長に今後の経営方針などを聞いた。

### 現法などの拡充・強化

——経営に当たっての抱負は。

米澤 オリエンタルコンサルタンツ(OC)から、オリエンタルコンサルタンツグローバル(OCG)として分割譲渡されたのが昨年10月で、ちょうど1年が経過した。その時に策定したグローバルビジョンに基づき、まずはその実現を目指していくことが基本だ。

グローバルビジョンは「世界的な企業ブランドとグローバルな企業形態」の実現を目標に掲げている。ポイントは海外拠点や現地法人網のさらなる整備・拡充に努め、日本がいわば“ハブ”として海外の各拠点をオペレーションしていた従来の形態を改め、各海外拠点が独立的に営業・受注活動を展開できるような、フレキシブルで“メタナショナル”的な経営形

態を目指していく。

OCGの現法体制は現在、インドネシア、ミャンマー、インド、カタールの4カ国。今後は、開発需要の高まりが東南アジアから西へとシフトする中、このエリアをカバーする拠点拡充を図るとともに、アフリカ、さらに中南米についても拠点を拡大していきたいと考えている。

——2014年度の国際協力機構(JICA)コンサルタント契約実績ではトップにランキングされています。政府開発援助(ODA)は引き続き、事業の柱になっていくと思います。  
米澤 現在も事業の8割以上が日本のODAで構成されており、引き続き、取り組みを強化し、さらに伸ばしていきたいと考えている。一方、ODAを主体にしたコンサルタント業務にとどまらず、

新たなグローバルビジネスにも積極的に挑戦していく。例えば、現地政府発注の事業、アジア開発銀行(ADB)や世界銀行など国際開発金融機関の案件、さらに民間ビジネス部門に取り組んでいきたい。ADBや世銀などからの受注状況は、全体の5%程度で推移しており、欧米コンサルタントとアライアンスを組んだり、現地法人のネットワークなどを活用しながら、この比率を高めていきたいと考えている。

こうしたアプローチは、今後増えていくであろうODA卒業国への取り組みでも大切になっており、ODA、非ODAの垣根を越え、一つのサイクルとして世界各地で展開していきたいと考えている。

### 問われる“事業性”

——政府の海外インフラ輸出政策な

どが注目されていますが、インフラ整備支援の在り方も変わってきていると思います。

**米澤** 伝統的なインフラ整備から、作って、技術を移転し、さらに運営していくという“事業性”が問われるものになっている。官民連携事業（PPP）などに対しても高度なコンサルティングサービスを提供できるよう、私たち自身、変わっていかねばならないと考えている。

また、OCGのグローバルビジョンに掲げる「新たなグローバルビジネス」には、コンサルティング業務にとどまらず、事業投資などの構想も含まれている。海外での事業投資にはリスクが伴い、それほど大きな投資はできないと思うが、少しずつ取り組んでいきたいと考えている。

——中小企業の海外展開支援でもOCGは前向きに取り組まれている。

**米澤** 中小企業支援のため、特設、専門セクションや要員を配置しているわけではなく、OCの地方支店ネットワークなどを活用し

ながら、OCとOCGの連携のもと支援業務に当たっている状況だ。中小企業からは引き続き、何件かご相談を受けており、やはり“事業をプロデュース”していく視点から、協力できるところは前向きに取り組んでいきたいと考えている。

OCにもこの10月から「海外事業部」が設置され、そこが窓口となり、OCGとの連携を深めている。ODA案件にOCの国内要員が補強で入るケースも増えており、今後とも人事交流は深めていきたいと思う。若手人材の育成という点でも効果的である。

### 最大の課題は「人」

——人材の育成・確保については、どう取り組まれていきますか。

**米澤** 最大の課題は、やはり「人材」である。国内に比べ、海外部門については人材さえいればまだまだ拡大できると捉えており、定期的な新卒採用に加え、業務経験豊かな即戦力人材の確保、またプロジェクトによっては外国勢を含め他社とのアライアンスで検討す



米澤 栄二氏

1985年東京都立大学（現首都大学東京）工学部土木工学科卒。同年オリエンタルコンサルタンツ入社。2008年GC事業本部に移籍。14年オリエンタルコンサルタンツグローバル代表取締役技術本部長。15年10月から現職

るなど、柔軟かつ戦略的に対応していく。

ちなみに今年4月入社の新入社員は8人で、日本人7人、ベトナム人1人という構成だ。外国籍の社員は現在30人ほどおり、グローバル人材として活躍しているところだ。

——売り上げ目標は。

**米澤** 今期（2015年10月～16年9月）は130億円を目標に据えている。受注ベースで見れば、ここ数年、約20億円づつ伸びており、前期はネパール地震の緊急開発調査などが入り、受注額を押し上げた形だ。

今後の目標は、2020年までに売上げで180億円を達成することだ。そのカギを握るのは、やはり「人材」であり、OCとの連携を強めながら、国内・海外の垣根を取り払う形で、良い人材の確保・育成に努めていきたいと考えている。

#### ■OCGの近年の主な受注プロジェクト

国名	案件名	クライアント
インド	アーメダバード外プロジェクト(フェーズ1)	METRO LINK EXPRESS For GANDHINAGAR AND AHMEDABAD COMPANY Ltd.
ネパール	ネパール地震復旧・復興プロジェクト	JICA
ミャンマー	貧困削減地方開発事業(フェーズ1)	現地政府
ガーナ、ブルキナファソ、コートジボワール、トーゴ	西アフリカ成長リング回廊整備戦略的マスタープラン策定プロジェクト	JICA
ベトナム	北部高度道路交通システム統合事業準備調査	JICA
スリランカ	新第2ケラニ橋建設事業	現地政府
フィリピン	南北通勤線事業(フェーズII-A)補足準備調査	JICA
フィリピン	台風ヨランダ災害緊急復旧復興支援プロジェクト	JICA